資料４－１

第二種特定鳥獣管理計画（第６期ニホンジカ管理）の策定について

Ⅰ　計画策定の目的・スケジュール等

１　計画策定の目的

科学的・計画的な個体数管理などの施策の実施により、自然環境への影響及び農林業被害の軽減を図りつつ、増えすぎたニホンジカを適正な生息密度に維持することを目的として、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号。以下「鳥獣保護管理法」という。）第７条の２の規定に基づき、「長野県第二種特定鳥獣管理計画（第６期ニホンジカ管理）」（以下、「計画」という。）を定める。

２　計画の期間

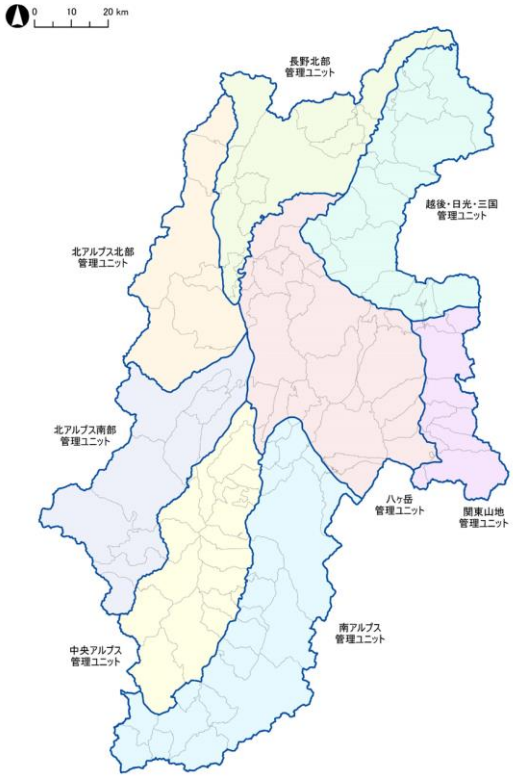
令和８年（2026 年）４月１日から令和 13 年（2031 年）３月 31 日までの５年間

３　対象地域

県下全域（８管理ユニットに区分して管理）（表１）

表１　管理ユニットの区域

管理ユニット	対象とする区域
関東山地	しなの鉄道、小海線、県境に囲まれた地域。
八ヶ岳	中央本線（中央西線、中央東線）、篠ノ井線、犀川、千曲川、小海線、県境に囲まれた地域。
南アルプス	県境、天竜川、中央本線（中央東線）に囲まれた地域。 （ただし、阿南町・平谷村・根羽村・下條村・売木村・天龍村を含む）
越後・日光・三国	しなの鉄道、千曲川、県境に囲まれた地域。
長野北部	大糸線、姫川、高瀬川、犀川、千曲川、県境に囲まれた地域。
北アルプス北部	大糸線、姫川、高瀬川、犀川、梓川、県境に囲まれた地域。
北アルプス南部	篠ノ井線、中央本線（中央西線）、梓川、犀川、木曽川、県境に囲まれた地域。
中央アルプス	中央本線（中央西線）、木曽川、天竜川、県境に囲まれた地域。 （ただし、阿南町・平谷村・根羽村・下條村・売木村・天龍村”を除く）



４　策定スケジュール

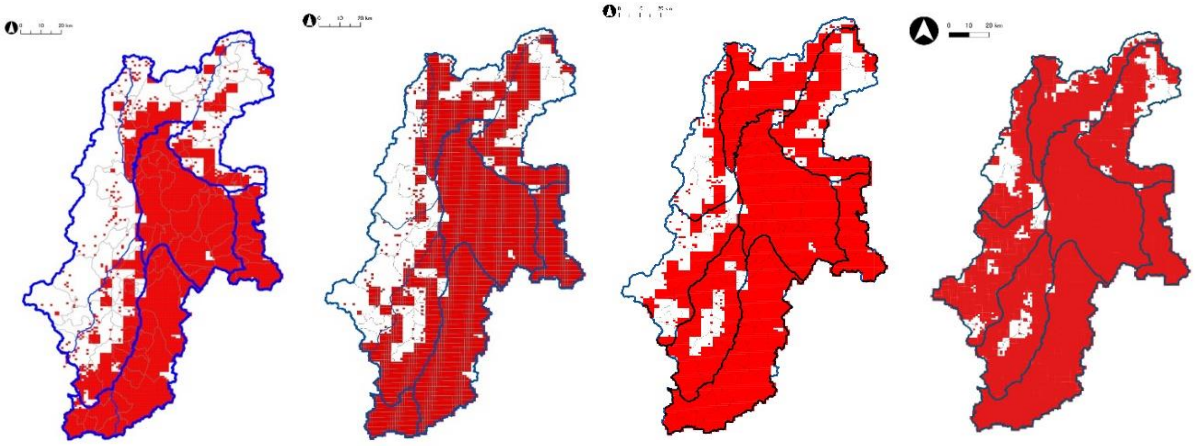
区分	R7.4	.5	.6	.7	.8	.9	.10	.11	.12	R8.1	.2	.3
環境審議会					● 諮問			● 中間報告				● 答申
検討委員会※1					← 調査結果検討・中間検討・計画案検討 →							
ニホンジカ専門部会※2					← 調査結果検討・中間検討・計画案検討 →							
調査等									→		県民意見公募、関係機関協議	

※１　「特定鳥獣保護管理検討委員会」は、県が作成する特定鳥獣に関する保護及び管理に関する計画の検討並びに適切な実行、事後評価を行うために総合的な見地からの意見を聴することを目的に開催

※２　「ニホンジカ専門部会」は、特定鳥獣保護管理検討委員会において審議する事項について、専門的な見地から意見を聴することを目的に開催

Ⅱ　ニホンジカに関する現状

1　生息分布の推移



平成 22 年度生息確認地点
及び平成 20 年度捕獲地点
7,370 メッシュ

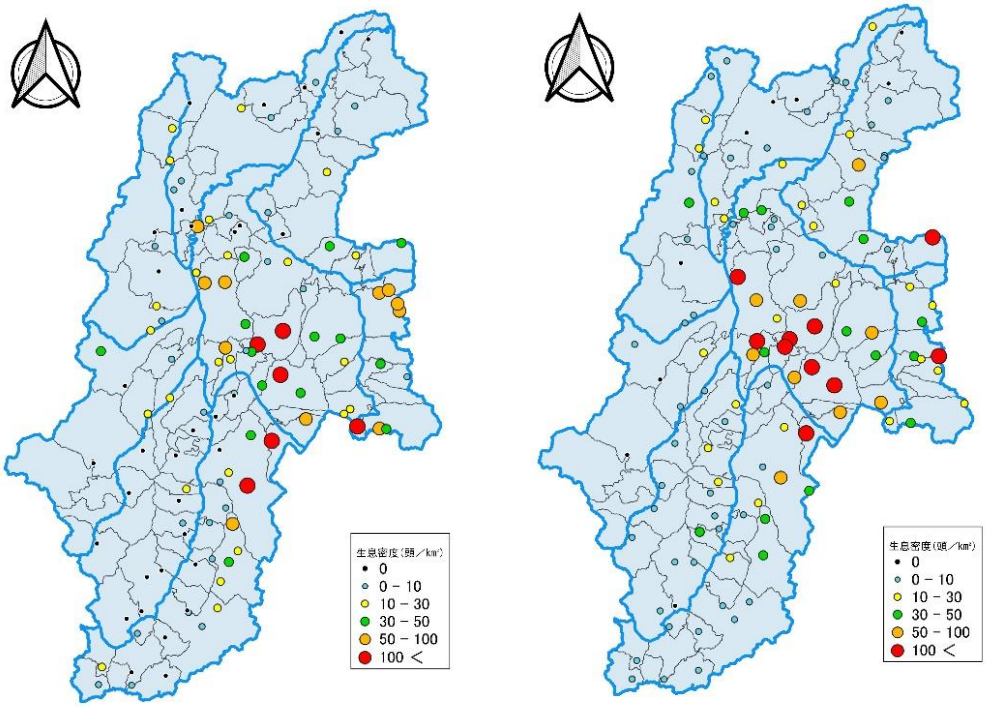
平成 27 年度生息確認地点
及び平成 26 年度捕獲地点
9,131　メッシ

令和元年度生息確認地点
及び平成 30 年度捕獲地点
10,146 メッシュ

令和 6 年度生息確認地点
及び令和 5 年度捕獲地点
11,951　メッシ

図 1　ニホンジカ生息分布の変化

2　生息密度分布



令和元年糞粒法調査結果（117 箇所）　　令和 6 年糞粒法調査結果（114 箇所）

図 2　ニホンジカ生息密度の変化

3　推定生息頭数の推移【参考】

平成 11 年度　中央値：31, 711 頭（19, 962～43, 460 頭）
平成 16 年度　中央値：61, 600 頭
平成 22 年度　中央値：104, 666 頭（43, 410～165, 922 頭）
平成 27 年度　中央値：203, 449 頭（105, 710～301, 188 頭）
令和 2 年度　中央値：216, 795 頭（124, 406～352, 803 頭）
令和 7 年度　※ベイズ推定により算出（令和 7 年 9 月末予定）

４　捕獲頭数の推移

第４期計画（平成 28～令和２年度）から捕獲頭数は増加傾向にあるが、年間４万頭の捕獲目標に対し、令和５年度は約３万頭と目標の 75%程度にとどまっている。（図３）

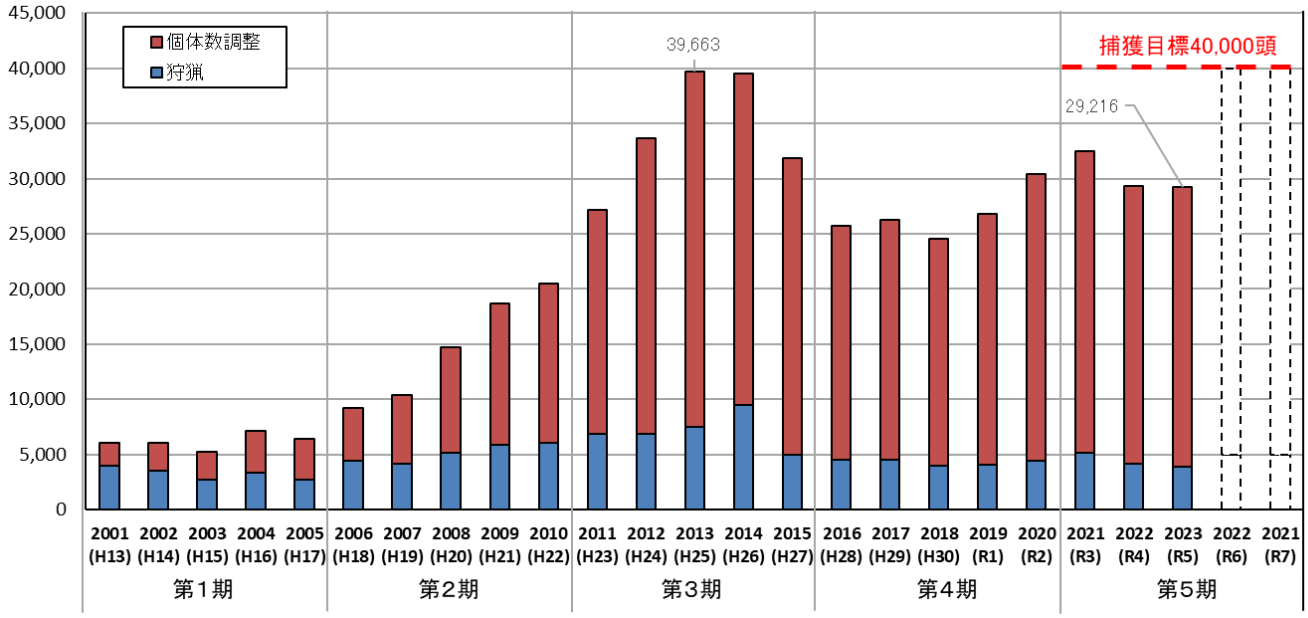


図３　捕獲頭数の推移

５　農林業被害状況

捕獲や防除の対策を講じた結果、平成１８年度に７億円だった農林業被害額は、令和２年度に２億２千万円まで減少したが、近年は微増傾向にある。（図４）

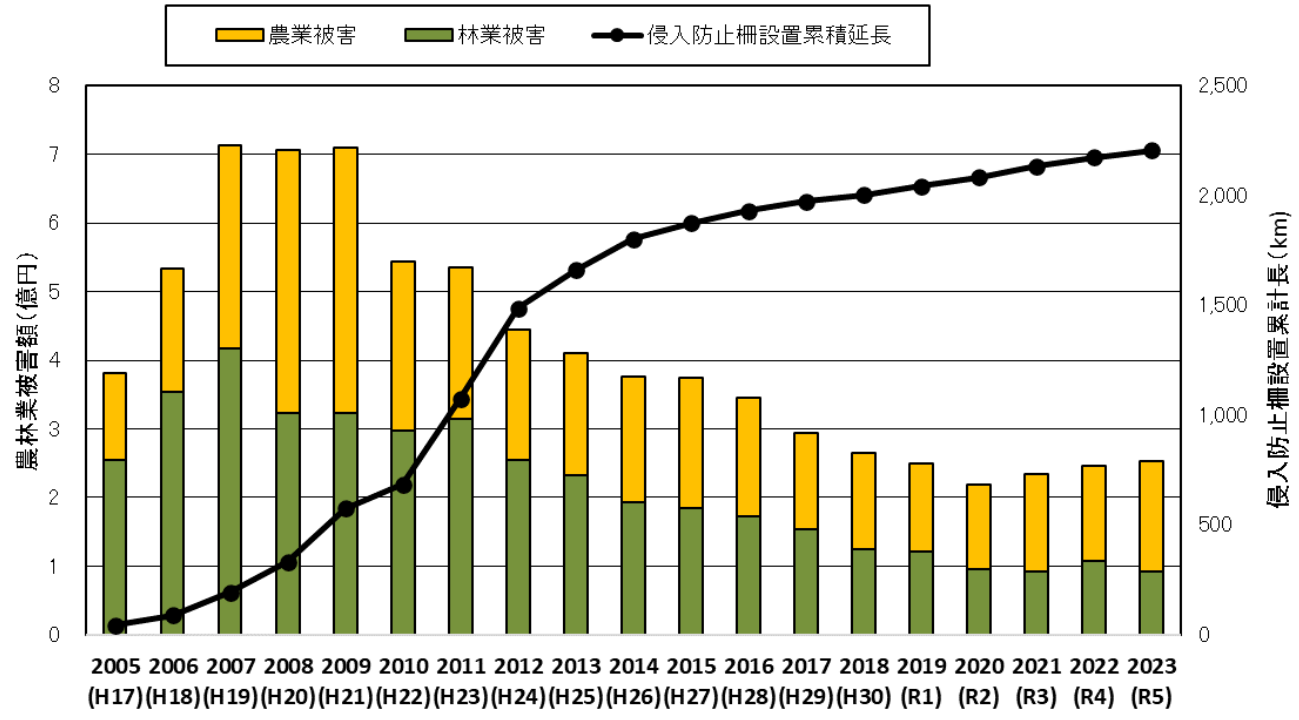
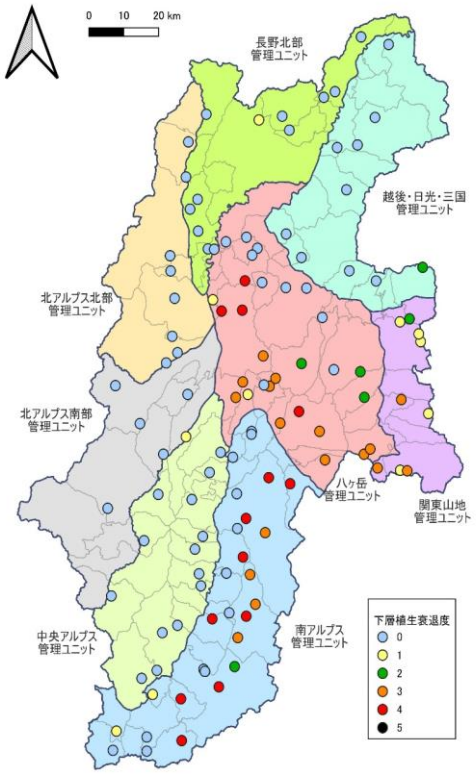
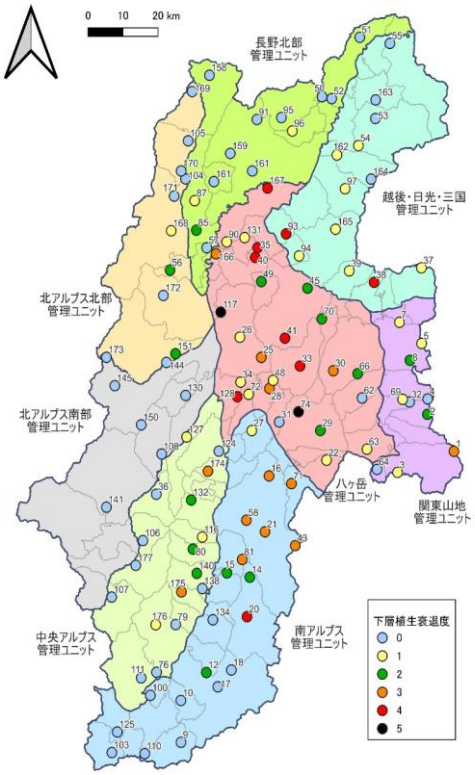


図４　農林業被害額の推移

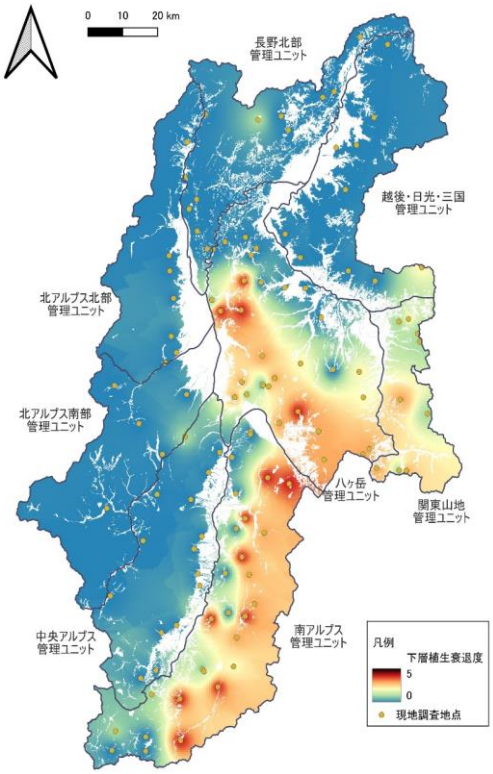
６　森林下層植生の衰退度



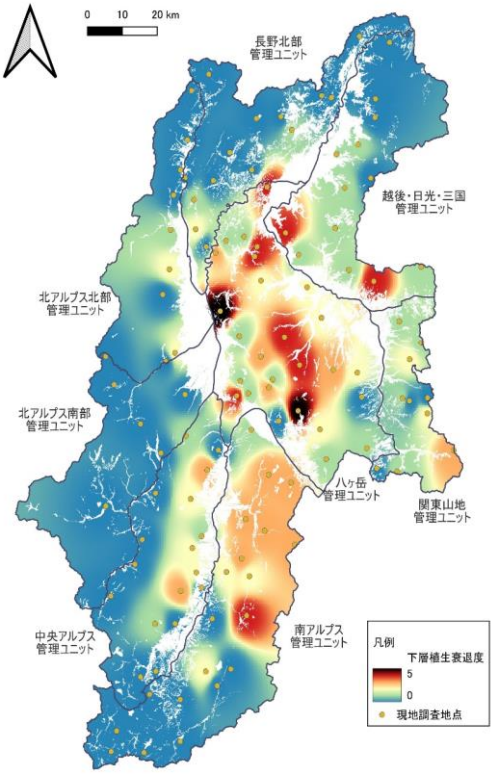
令和元年下層植生衰退区分



令和６年下層植生衰退区分



令和元年下層植生衰退度　空間補完図



令和６年下層植生衰退度　空間補完図

Ⅲ　第６期ニホンジカ管理計画に向けた考え方

１　第５期計画の基本的な考え方

【管理目標】

①農林業被害の軽減
②自然生態系への影響の軽減
③個体数の削減・個体の排除による適正な生息密度への誘導

【目標を達成するための取り組み】

①個体数管理
　管理捕獲、指定管理鳥獣捕獲等事業、狩猟の組み合わせによる積極的な捕獲
②被害防除対策
　侵入防止柵の設置や樹皮剥ぎ防止テープ巻き、忌避剤等による被害防除
③生息環境管理
　餌資源となる造林地や牧草地等の侵入防止柵の設置及び維持管理
④ジビエ利活用の推進等
　捕獲個体のジビエ利用を推進

２　第６期計画の策定にあたっての留意事項

第５期計画では個体数管理を中心とした対策を推進してきたが、目標捕獲頭数を達成できていない、農林業被害額が微増傾向にあるなどの課題が生じている。また、捕獲者は減少しており、現在の目標捕獲頭数以上の捕獲は見込めない状況である。

第６期計画では、このような状況を踏襲した上で、管理目標や目標達成のための持続可能な取り組みについて、ニホンジカ専門部会等で検討する。